

第3回防災コンテスト シンポジウム プログラム

1. 開会あいさつ・趣旨説明 14:00～14:15

登壇グループ 【ドラマ】札幌日本大学高等学校放送局（北海道北広島市）

2 テーマ別討論 14:15～16:45

2-1. テーマ① 子ども・高齢者への支援(p2～) 14:15～14:45

登壇グループ 【マップ】東白川村・災害時要援護者避難支援プロジェクト（岐阜県東白川村）

【マップ】小渡(おど)自治区自主防災会（愛知県豊田市）

【脚本】水街道諏訪町町内会（茨城県常総市）

【マップ】豊川市平井子供会（愛知県豊川市）

【マップ】西浦小学校 補導委員会（静岡県沼津市）

【脚本】水の自遊人(じゆうじん)しんすいせんたいアカザ隊（山口県防府市）

2-2. テーマ② 障害者への支援(p4～) 14:45～15:05

登壇グループ 【マップ】千葉県立東金特別支援学校（千葉県東金市ほか）

【マップ】岐阜県立加茂特別支援学校（岐阜県美濃加茂市）

【ドラマ】ほにゃらキッズ（茨城県つくば市）

【脚本】つくば防災コーディネーター（茨城県つくば市）

2-3. テーマ③ 地域主体による防災活動(p5～) 15:05～15:25

登壇グループ 【マップ】栃尾上塩(とちおかみしお)地区天平沖布(あまびらおきぬの)（新潟県長岡市）

【マップ】倉真(くらみ)まちづくり委員会（静岡県掛川市）

【脚本】山古志種苧原(たねすはら)集落（新潟県長岡市）

【ドラマ】星崎学区連絡協議会（愛知県名古屋市）

休憩 15:25～15:40

2-4. テーマ④ 学生主体による防災活動(p7) 15:40～16:10

登壇グループ 【ドラマ】江戸川女子中学校（東京都江戸川区）

【ドラマ】愛知産業大学三河高等学校放送部（愛知県岡崎市）

【ドラマ】箕面(みのお)自由学園高等学校防災課（大阪府豊中市）

2-5. テーマ⑤ 東日本大震災の体験とその伝承(p8) 16:10～16:45

登壇グループ 【マップ】七ヶ浜町社会福祉協議会（宮城県七ヶ浜町）

【脚本】一般社団法人みやぎ福祉・防災情報化機構（宮城県仙台市）

【脚本】碁石(ごいし)観光がんばろう会（岩手県大船渡市）

【脚本】特定非営利活動法人 Tree Seed（宮城県気仙沼市）

3. 閉会あいさつ 16:45～17:00

第3回防災コンテスト 表彰式・シンポジウム

【日時】平成25年2月23日 13:00～17:00

【主催】防災科学技術研究所

【会場】東京国際フォーラム ホールD5

【WEB】<http://bosai-contest.jp/>

◆マップ◆ 東白川村・災害時要援護者避難支援プロジェクト (岐阜県東白川村)

災害時要援護者の避難支援を目的として、行政、社会福祉協議会、土木事務所、地元NPO、そして地区住民が協働して作成したマップ。ハザードマップに各集落の過去の被災体験や地域の具体的な課題などの地域情報を掲載することで、より実践的な対策につながるマップとなっている。多様な主体による高い協働性の中でリスクを共有することで、具体的な要援護者支援対策が検討されている点を高く評価。

◆マップ◆ 小渡(おど)自治区自主防災会 (愛知県豊田市)

【注】 この地図に、要援護者宅などの位置を加えた地図が、受賞作品となります。

自主防災会による土砂災害から要援護者を守る土砂災害対策マップ。土砂災害ハザードマップを用い、要援護者の位置をプロットすることで一人一人の土砂災害リスクを明確にし、まちあるきを通じて現地の確認が行われている。今後、この成果を用いて、具体的な安否確認や避難支援への対策の検討に活用されることを期待する。

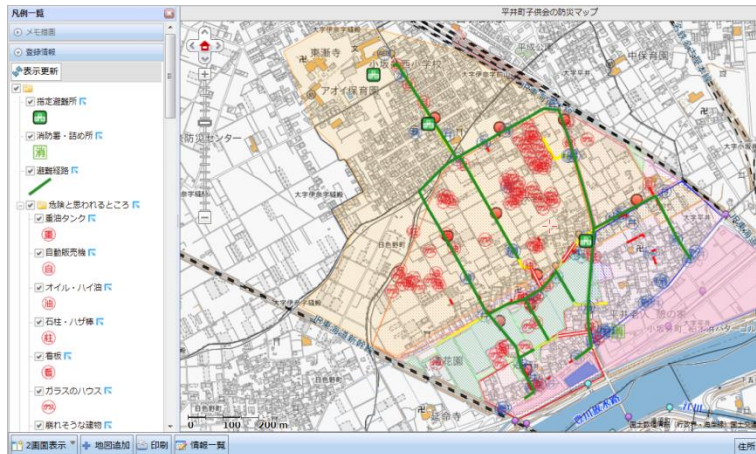
◆脚本部門◆ 水街道諏訪町町内会 (茨城県常総市)

【作品名】 一人暮らしの高齢者から助けよう

夜中に発生した震災対応として、独居老人の安否確認をテーマにしたドラマ。ドラマを活用することで、これまでに町内会で取り組んだソフト対策（自主防災会の設立）やハード対策（防災資機材の備蓄）が災害時に機能できるのか、検証が行われている。誰がどのように動くのが良いのかわかりやすく、リアルな町内の対応が再現されている。

◆マップ◆ 豊川市平井子供会（愛知県豊川市）

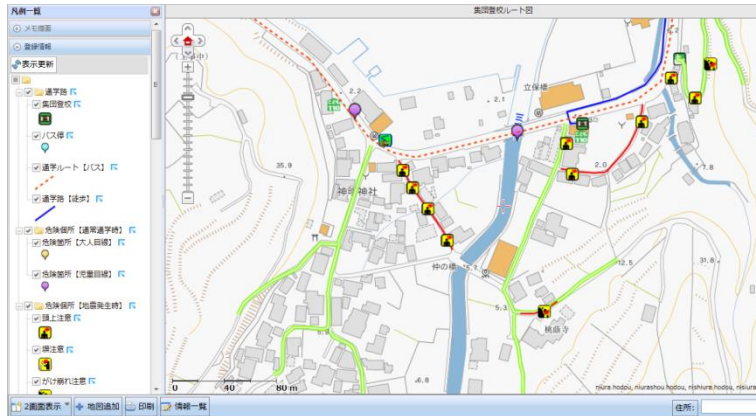
【作品名】 平井町子供会の防災マップ



子供を津波から守るという明確な目的をもって作成された登下校中の津波避難マップ。学校の危機管理として、従来、登下校中の避難先を「自宅」と指定されていたが、今回の取り組みの中で学校に働きかけ、より高地にある「学校」へと避難先が変更されるなど、具体的な対策の見直しがなされた点を高く評価した。

◆マップ◆ 西浦小学校 補導委員会（静岡県沼津市）

【作品名】 集団登校ルート図



小学校のPTAによる通学路の地震津波避難マップ。学校の危機管理としてではなく学校と保護者が協働して、通学路の津波のリスクを評価し、避難ルート・避難先の見直しを図っている。学校の危機管理や学校における防災教育、バス会社によるスクールバスの運行管理など、こどもの通学の安全管理に関わる各関係主体へ、マップづくりの検討結果が反映されるように、積極的に働きかけている点を高く評価した。

◆脚本部門◆ 水の自遊人(じゅうじん)しんすいせんたいアカザ隊（山口県防府市）

【作品名】 一人だけど一人じゃない

梅雨末期の長雨のあと集中豪雨の中、1人で帰宅した女子児童が土砂災害に巻き込まれそうなところを自治会に救助されるドラマ。地域の人たちとの日頃からのコミュニケーションの大切さ、いざという時にどのような行動をするかを伝えたい。

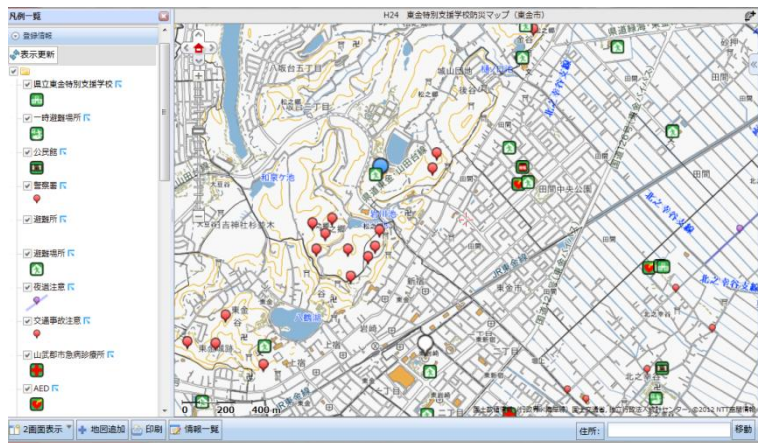
大雨による土砂災害に対して、地域コミュニティによる子どもや災害時要援護者（ろうあ者）の避難支援を描いたドラマ。子どもの視点を通じた被災体験という設定にストーリーとメッセージ性がある。

テーマ② 障がい者への支援

車いすでの生活、知的障がいを持っているなど、障がいを持つ方やその家族だからこそ抱える特有の災害時の課題、介助者や市民などによる継続的な支援・協力体制づくりへの活動について検討します。

◆マップ◆ 千葉県立東金特別支援学校（千葉県東金市ほか）

【作品名】 東金特別支援学校防災マップ



障がいを持った子どもたちの、自分たちの身を守るための防災教育の教材として活用されたマップ。マップを使った教育過程では、地域住民の協力を得ながら地域との関係をつくることで、障がいを持った子どもたちの安全確保につながっている。今後は、防災教育としての活用に加え、地域の福祉避難所ともなりうる特別支援学校として、防災危機管理としての活用が期待される。

◆マップ◆ 岐阜県立加茂特別支援学校（岐阜県美濃加茂市）

【作品名】 防災安全マップ



障がいを持った子どもたちの、自分たちの身を守るための防災マップ。学校周辺を散策し、危険箇所や地域資源などを整理している。指定避難所となっている特別支援学校として、防災危機管理としての活用が期待される。

◆ドラマ部門◆ ほにやらキッズ（茨城県つくば市）

【作品名】 ぼくらがたいけんした たつまきのあくむ

週末のある日、4人の障がい児・生徒がヘルパーと一緒にショッピングモールに遊んでいたとき、竜巻が発生。車いす使用している人、知的障がいのある人はどうやって無事に退避するのか……。ある車いす使用者が実際に体験した出来事をもとに作成しました。要援護者に対してどのようなサポートが必要なのかを、要援護者自身の経験と視点に基づき、考え提案する事を目指したドラマ。

車いすの方や知的障がいもある障がい児たちが遊んでいる際に、竜巻による停電被災が発生したことを想定したドラマ。実際に障がい児が作成し、出演することで、冷静な避難行動についてシミュレーションがなされている。また、その際の介助者や市民、店員さんなどのサポートの在り方が示されている。停電被災でも、困難が発生するということがよく伝わり、ドラマとしても興味深くおもしろい。

◆脚本部門◆ つくば防災コーディネータ（茨城県つくば市）

【作品名】 特別支援学校

東日本大震災の際に、とある特別支援学校で実際に行った対応をドラマ化。

スクールバスで学校から送り出そうとした際に震災が起きたため家族と連絡が困難になった話、支援学校は避難所に指定されていないが地域の方が、避難したことを受け、市の防災計画を見直していく話、などをドラマ化。

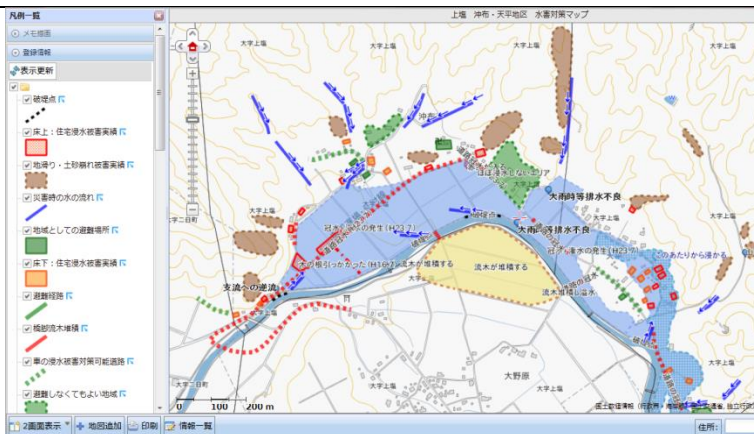
東日本大震災における支援学校の対応や、地域などとの連携を描いたドラマ。東日本大震災での対応や課題をリアルに再現し、その後、地域の福祉避難所としての指定など実践的な防災対策が展開されている。また、スクールバスのバス停の確保等、実際に起こった困難な状況を丁寧にシナリオ化している。取組全体を把握しきれない保護者の方々も、このドラマで共有するなど活用が見込まれる。

テーマ③ 地域主体による防災活動

町内会や自主防災会など、地域で防災活動に取り組んでいるところは非常に多い。一方で、防災活動をしていても成果をあげられていない地域も多い。受賞グループでは、どのような取り組みを行っているのか、これまでとどのように違うのか、議論する。

◆マップ◆ 栃尾上塩地区天平沖布(とちおかみしおちあまびらおきぬの)（新潟県長岡市）

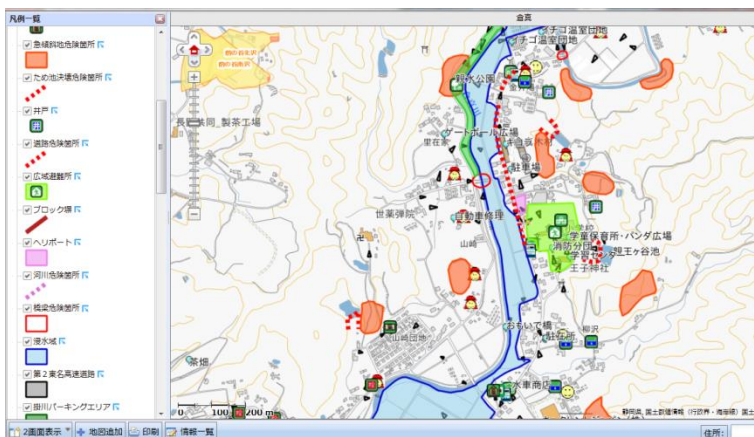
【作品名】 東上塩 沖布・天平地区 水害対策マップ



専門的知識を持つ支援団体との協力しながら、被災体験などを住民に聞き取り、作成した水害・土砂災害マップ。地域防災計画上で指定されている避難所のリスクを評価・見直し、住民自ら新たな避難所を指定したことや、人的な被害の想定に加えて車両の被害を想定し車両の避難場所を指定するなど、現状の防災対策の具体的な改善に結びついていることを高く評価した。

◆マップ◆ 倉真(くらみ)まちづくり委員会（静岡県掛川市）

【作品名】 倉真マップ



地震、水土砂災害を想定した、事前対策から事後の対策に及ぶ総合的な防災マップ。総合的なまちづくりを担う住民組織の中に防災対策の部会を設置し、多様な主体の協働性の中で、実践的な防災対策が検討されている。ため池決壊をはじめとする中山間特有の二次災害について対策がされている。地区内の危険箇所などの写真を効果的にも用い、具体的な地域の実情に合った検討がしやすい防災マップとなっている。

◆脚本部門◆ 山古志種芋原(たねすはら)集落 (新潟県長岡市)

【作品名】 種芋原防災訓練

中山間地域の山古志地区にて地震が起きた。種芋原集落の安否や道路閉塞状況の確認、衛星電話による山古志支所との情報共有のやり方が分かるドラマ。集落内の役員のみで行った防災訓練とその反省会での意見交換をもとに作成したドラマ。当日参加できなかった集落住民に解り易く伝えている。

震災を想定した地域の安否確認や外部との連携をドラマ化したもの。山間地域特有の対応が検討されており、外部地域とつながる道路の通行可否の確認や衛星電話による連絡などリアルである。一時集合場所を道路端から駐車場に変更するなどの臨機応変な改善も盛り込まれていた。また、防災訓練の活動内容を共有している点も評価できる。

◆ドラマ部門◆ 星崎学区連絡協議会 (愛知県名古屋市)

【作品名】 平成の伊勢湾台風

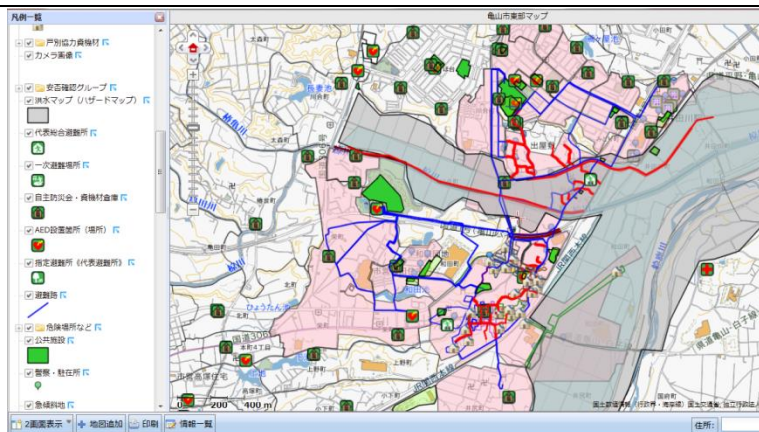
消防団長を務める祖父が、伊勢湾台風並みの大型台風が近づいていることをテレビの気象情報で知る。

「この星崎から一人の犠牲者も出さない」ために、学区と組長とが協力しながら「一軒ずつ回って台風情報を伝えていく。数日後の学区定例会議では、これを機に「星崎学区の防災安心まちづくり委員会」の体制を整備していくことになった。

平成の伊勢湾台風を題材にした作品。5 日前からの予報情報を踏まえて要援護者などの避難支援をどのように行うか、検討した作品。防災マップ利用によるリスク情報を活用したシナリオになっており、高齢者や要援護者、災害弱者に対する対応も描かれ、防災的な観点でみるとお手本のようなシナリオである。

◆マップ◆ かめやま防災ネットワーク (三重県亀山市)

【作品名】 亀山市東部マップ



亀山市内で地域の防災活動を支援する市民グループによる地域の防災活動支援マップ。小学校や自治会での防災活動の場面でマップを使い、リスク情報を提供し、具体的な地区の防災活動を支援していることが高く評価できる。

◆脚本部門◆ Shimotsuma kids (茨城県下妻市)

【作品名】 そのとき

茨城県下妻市の駅から徒歩十分圏内の一戸建て住宅に住む4人家族に、冬の午後1時半ごろ、家族がバラバラの時に震度6弱の地震が起きる。それぞれが家に戻るまで、職場や学校でどんな事が起きるかをシミュレーションしたドラマ。災訓練とその反省会での意見交換をもとに作成。

地震災害において、家族それぞれが遭遇する場面を、登場人物・シチュエーション別で総合的に描いたドラマ。家族メンバーそれぞれの安否確認方法や情報収集について、リアルにシミュレーションして対策を検討している。各登場人物の行動がイメージしやすいシナリオで、家族内で災害を話し合うきっかけになる点が評価できる。

テーマ④ 学生主体による防災活動

学生が作成したドラマなどは、現状の防災体制に縛られない、新しいアイデアを含んだ作品です。また、楽しみながら作る術を知っています。学生と地域とが協力して防災活動に取り組むことができるのか、その糸口を探ります。

◆ドラマ部門◆ 江戸川女子中学校（東京都江戸川区）

【作品名】 過去からのおくりもの

主人公のりさとその妹はるか、大雨による緊急避難指示を聞き損ね、逃げ遅れてしまう。そこにららという見知らぬ少女が現れ、アドバイスをもらう。

土手の工事中の場所から浸水するという、現状の事実関係に基づいたドラマとなっている。河川事務所、市役所に対して被害想定や対策などの取材調査を行っており、調査結果を踏まえた地域で意見交換するための良い題材となっている。

また、ドラマの質も高く、震災後の一般人の感覚を表現していてリアリティがあり共感が持てた。

◆ドラマ部門◆ 愛知産業大学三河高等学校放送部（愛知県岡崎市）

【作品名】 防災拠点 道の駅 【藤川宿】

鉄道の駅に隣接されるように新設された道の駅、藤川宿。大雨を想定し、FM局や防災タクシーなどとの協力による、藤川宿の防災拠点としての情報収集と情報発信のあり方を模索しながら、対処し最悪の状況回避の手立てを検討したドラマ。

ゲリラ豪雨による交通機関の不通や情報発信・共有をテーマにしたドラマ。災害情報の入手、情報提供要請等、情報入手手段などの対策の提案がなされている。鉄道、防災タクシー、道の駅、コミュニティFM、県域FMなどとの協働性が高く、各者へのインタビューも含めリアリティのある被害想定に即して制作されている。

◆ドラマ部門◆ 箕面(みのお)自由学園高等学校防災課（大阪府豊中市）

【作品名】 やってます防災学習

女子高校生、男子高校生、幼児とその祖母が博物館で震度6の地震にあう。日頃から防災の授業を受けている学生が、その知識を使って周りの大人たちも含めてその場のみんなの体も心も助けることになる。

防災授業で学んだことを駆使しながら、震災で閉じこめられた状況に対応していくドラマ。「大人が対応できないことがあり得る」という想定をしており、ドラマも面白い。

◆ドラマ部門◆ 札幌日本大学高等学校放送局（北海道北広島市）

【作品名】 TSUNAMI

1993年7月12日、北海道奥尻島午後10時22分、津波警報が出された。奥尻島青苗に住んでいた主人公・優希は津波にさらわれたが、美幸の言葉を聞き、いつしか美幸の存在が優希の心の支えになっていた。あれから20年、あの日、自分が支えられたように今度は夫婦でボランティア活動に参加し、誰かの支えになりたいと行動した。

奥尻島での津波被災経験を踏まえた津波避難のドラマ。ドラマの王道の作品で、ラジオドラマとしての完成度が高い。津波警報を伝える放送などリアリティがある。一方で、津波の危険がある地域では津波警報だけを頼りにするのではなく、「揺れたら逃げる」という根本的な津波避難のメッセージがあるとより良かった。

◆マップ◆ 七ヶ浜町社会福祉協議会 (宮城県七ヶ浜町)

七ヶ浜町生活避難マップ 構築中作業画面

メニュー
 表示更新
☒ 七ヶ浜町社会福祉協議会
☒ 七ヶ浜町社会福祉協議会生活支
☒ 七ヶ浜町文庫資料
☒ 東日本大震災津波との関
☒ 津波に津波、津波の恐れのある
☒ 津波危険箇所
☒ 東日本大震災津波被災地域
☒ 避難要域地域
☒ 行政区
 背景地図
 主題図
☒ 日本地理学会 津波被災マップ
☒ 日本地理学会 仮設住宅マップ
☒ 仮設住宅 (設計)
☒ 仮設住宅 (新設計画)
☒ 避難所 (公設用)

2画面表示 地図追加 印刷 情報一覧 住所

◆脚本部門◆ 一般社団法人みやぎ福祉・防災情報化機構 (宮城県仙台市)

災害ボランティアに来た主人公がブログを通じて被災地外に情報を発信するドラマ。遠方の地域で起こった大規模災害に対する情報支援をテーマにし、東日本大震災での実話をドラマ化している。被災地の情報発信支援の大切さが伝わる、ドラマとして話がまとまっている作品である。

◆脚本部門◆ 碁石(ごいし)観光がんばろう会 (岩手県大船渡市)

大津波警報時における道路渋滞をテーマにしたドラマ。車が歩道を乗り上げて避難しようとして事故(二次災害)が起きてしまう、など、状況にリアリティがある。大津波警報時の避難方法としての課題・問題提起として良い。

◆脚本部門◆ 特定非営利活動法人 Tree Seed (宮城県気仙沼市)

東日本大震災での体験を踏まえた6作品を応募。リアリティが非常に高いドラマで、災害時の記録として大切にしたい作品。審査員特別賞として評価した。